

## 「第42回生鮮流通フオ れた。

た。

秀樹専務、常洋水産(株)

「ラム」(パーソナル情報システム)主催の2日目が11月14日、東京・豊洲市場講堂で開催され、東京海洋大学の婁小波副会長が「水産物卸売市場流通の未来像を考える—不確実性・多様性・効率性の狭間で」と題し、水産物流通を取り巻く

秀樹専務、常洋水産株  
(水戸市)の大谷勉会長  
は、「水産市場の関東広  
域のあり方」について意  
見交換。

地魚市場(株)の吉田  
区)の吉田  
猛代表取締  
役会長らが

参加するパ  
ネルディス  
カッショ  
ンなどが行わ

# 市場の多角化経営など議論

生鮮流通フォーラム

2

衛生面の管理機能が向上し、一方、物流経費などのコスト増加が課題であると指摘。電子決済

入の減少、輸出の増加により日本国内で水産物の供給不足が発生しており、水産物の価格上昇た。市場の優位性が揺らいでいる現状について説明した。

ロナウイルス禍をきっかけに食生活の電子商取引（EC）利用が大きく伸びていると指摘。卸売市場の優位性が揺らいでいる現状について説明した。

市場の多角化経営についても議論され、源波専務は同社が未利用魚を学んだ。

団副学長は「市場間や地との連携による販売校給食へ活用する取り組みを紹介した。」  
アスレチック部は「今後は、二年生

で高くなくて  
いると話し  
議論する (左)  
から 吉田会  
長、源波専務  
大谷会長、司  
会を務めた市  
場流通ジャー  
ナリストの淺  
沼進氏

市場機能の強化や、EC  
をはじめとした新機能  
を取り込み、人工知能 (A  
I) やビッグデータなど  
の基盤技術の活用などが  
求められるようになる」  
と今後の展望を語った。  
基調講演のあと、築地  
魚市場の吉田会長と横浜  
丸魚株 (横浜市) の源波  
た。

大谷会長は「子会社に  
チャネル再編など既存の  
市場機能の強化や、EC  
をはじめとした新機能  
を取り込み、人工知能 (A  
I) やビッグデータなど  
の基盤技術の活用などが  
求められるようになる」  
と今後の展望を語った。  
基調講演のあと、築地  
魚市場の吉田会長と横浜  
丸魚株 (横浜市) の源波  
た。

